

【講評文】8月9日（火） 1校目

## 「アニー・ホール」の『じゃがいもかあさん』 岐阜各務野高校

昨今の世界情勢を思い、心に刺さる劇でした。私たちが能動的に知りに行かないと分からない戦争の痛みや、人種や立場という壁によって今は隔てられている人々も、本当は分かり合えるはずだという強い意志を知ることができました。劇中の多くのシーンで歌が使用されており、聴覚的に分かりやすかっただけでなく、歌を通じて細かな心情の変化も併せて表現され、辛い状況の中でも生を楽しむ心を忘れない人々の思いが伝わりました。歌や語りによって難しい情勢が丁寧に説明されており、とても理解しやすかったです。

時間経過や話の区切りを表す場面転換が、舞台に立つ役者の動きによってスムーズに行われ、気をそがれることなく観ることができました。一方で、アップテンポな展開の変化には最初ついていけず、展開が分かりにくいという意見もありました。

また、重要となる「塀」の存在をはじめ装置の作り込みが秀逸で、装置上で役者たちが大胆に動くことのできる頑強さに加え、その場面の緊張感や疾走感が感じられました。また、現実のアニーカ達と劇中劇をわかりやすく区別することもできていました。

衣装について、劇中劇の際の陣営分けは色の違いによって分かりやすかったのですが、アニーカ達が腕章のみでやや分かりにくかったという意見もありましたが、時代考証がしっかりされており、世界観が統一されていたことで、劇にリアリティをもたせていたと感じられました。

場面や状況の変化が照明・音響により非常にわかりやすく、役者との息の合い方からもそこに生きているという臨場感をいっそう高めていました。しかし、名前を呼んで紹介するところでは誰のことを指しているのかがわかりづらく、少し戸惑いました。それぞれの紹介や誰が喋っているのかを強調したい部分では照明を当てるなどの工夫があると観客に親切だったように感じます。登場人数の多い劇だからこそ、主要な人物をより強調することが求められることを改めて感じました。

劇全体を通して、過酷な環境下で生きる登場人物が、その苦しさを振り切ろうとするかのように明るく振舞う様子が上手く表現されていました。懸命に生きようとする登場人物の姿から、戦争や迫害がいかに無意味で悲惨なものであるかを知ると同時に、どんな状況にあっても、明るく前を向き楽しむことを忘れないような生き方をしようと思いました。

岐阜各務野高校のみなさん、お疲れさまでした。

(文責 岐阜北高校 2年コウ 1年パール)